



北海道中央霊園の合祀墓「結の苑」。道内外から利用申請が増加している

合祀墓 2年で申請700件 三笠「結の苑」 37%が生前予約

【三笠】公益財団法人北海道中央霊園(山見沢)が、三笠市大里の同霊園内に設けた合祀墓「結の苑」の利用申請が増えている。2014年6月の設置当初は年間100件程度の申請を見込んでいたが、2年不足で計700件近くに達した。背景には、少子高齢化や核家族化などで、墓の管理が難しくなっている現状があるようだ。

「結の苑」は約100平方メートルの敷地に設けられ、複数の遺骨を合同で納める。モニメントの地下に約2千体を納骨できる。費用は永代供養や納骨料などを含めて3万9千円。出身や居住地にかかわらず全国から利用を受け付けている。

今年4月18日までの申請は672件。このうち426件(63%)は既に埋葬された。残りの246件(37%)は「家族がいないため、墓の管理が難しい」といっ

た理由で、自分が亡くなった場合の埋葬を依頼する「生前予約」だった。

道外からの申し込みも約1割を占めている。

福島県郡山市の男性(71)は、学生時代を道内で過ごした。姉妹が苦小牧や岩見沢に住む縁から、14年に生前予約した。現在は独身で、「関東に住む子供とも疎遠になり、墓を管理する負担をかけたくない」と話す。県内の墓に納めていた親戚の遺骨5体も、「結の苑」に移した。

同法人の武田寛理事長は道外からの申し込みについて、「北海道に住んだ経験があったり、北海道出身の人たちが、亡くなった後は北海道で」と申し込む例が多い」と話している。

(加藤千茜)